

# 東京都地理教育研究会

## 団体の概要

東京都地理教育研究会は、都立高校で地理を担当する教員の団体として、年3回の授業研究（うち1回は中学校の授業を見学）と年2回の巡検、GIS研修会等を中心に、授業力の向上を目指して活動をしている。

また全国地理教育研究会とも連携し、全国大会の企画・運営等の事務部門も担当している。今年度は必修科目実施直前の重要な時期にあたり、オンラインでの全国大会を開催した。

## 研究の内容

授業研究を中心に授業力向上に向けた研究を行っている。今年度も感染症対策で巡検は中止とした。「地理総合」実施に向けて、教材や作成技術の共有化を図るため、GIS研修会を中心にオンラインでも開催可能な内容で模索しながら実践した。昨年度より始めた定期考査問題の研究協議会を継続した。9月には専門性向上研修「社会・地理歴史Ⅱ」を実施した。

## 研究テーマ

地理総合に向けて

～生徒が主体的に学ぶ教材の作成～

## 研究のねらい

令和4年度から実施される新科目の先行研究を踏まえ、生徒の主体的な思考を促し、新科目の骨子である「GIS（地理情報システム）」、国際理解、防災に関して、資料提示の方法や教材作成力の向上をはかり、良質な教材の共有化をめざす。

## 研究の成果と課題

新科目の骨子であるGISの活用について、教材としての活用方法を研究し、地理を専攻としない教員が授業を行う際の支援策となるべく、「都地研GISミニマムスキル」の作成を進めた。会員からの情報や教材提供により充実したコンテンツが集まったが、導入場面の選び方や授業での扱い方などが複雑になった感がある。見てすぐ使えるように再整理を進めたい。

## 今後の活動予定

新学習指導要領実施で新たに導入される観点別評価について、事前の情報交換や共通理解を促進するための研究会を1月中旬に開催予定。

## 代表者・連絡先

代表者：

都立戸山高等学校 統括校長 櫛野治和

連絡先：

都立青山高等学校 主任教諭 白川和彦  
03(3404)7801

[Kazuhiko\\_Shirakawa@education.metro.tokyo.jp](mailto:Kazuhiko_Shirakawa@education.metro.tokyo.jp)

# 東京都公民科・社会科教育研究会

## 団体の概要

前身の研究会から70年余りの歴史をもち、主として「倫理」「政治・経済」「現代社会」「(新学習指導要領での)公共」についての会員相互の研究を通して、東京都の公民科・社会科教育の振興を図ることを目的としている。

## 研究テーマ

- ・新しい学習指導要領と同解説を踏まえた指導方法の研究、開発及び改善を目指す。
- ・大学入学共通テストの研究・分析を通して生徒の学力向上に資する授業の改善、並びに大学受験に係る指導方法の改善を目指す。

## 研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

- ・新しい学習指導要領の公民科新科目「公共」における指導方法について  
⇒特に、指導の在り方及び観点別評価の導入方法について研究活動を行った。
- ・大学入学共通テストに向けた各学校での取組について

## 取組の内容

- ・研究授業、講演会、研修会及び夏季研修会の実施（合計で年4回程度）  
【例年の研究授業】通常の研究授業に加え、税務署等の外部機関と連携した授業を実施  
【今年度の講演会、研修会】・「公共」の授業に向けた指導案の検討（研修会）  
・大学入学共通テスト解析会（同）

## 成果

- ・昨年度に続き、コロナ禍で限られた研究会の開催であったが、その中でも各学校での取組を研究し、合わせてオンライン授業での取組なども共有することで、研究活動を継続していくことができた。



例年の研究会の様子

## 課題

- ・公民科は各校1名ないしは2名の配置となっており、若手の教員でも悩みを抱え込みやすい教科である。本会は近年、東京都の採用増加に伴い若手・中堅の先生方が増加してきたが、多くの先生方の参加を促し、“横のつながり”を作り上げていくことが継続的な課題である。また、新科目「公共」に向けた研究も継続していく。

## 今後の活動予定

- ・今後も年4回程度の研究会を実施し、東京都の公民科教育の発展に尽力していく。
- ・令和4年度は7月下旬に東京都で全国研究大会が開催されるため、その開催に向けても準備を進めていく。

## 代表者・連絡先

代表者：  
都立世田谷泉高等学校 統括校長 沖山 栄一  
連絡先：  
都立蒲田高等学校 主幹教諭 浅川 貴広  
電話 03-3737-1331

## 東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会

**団体の概要** 昭和37(1962)年「倫理・社会」教科研究のため設立以来、現在では「現代社会」「倫理」担当教員を中心に、授業改善を目指し活動。新科目「公共」についても研究を始めている。

**研究活動のテーマ** 年2回の公開授業を実施し、授業実践研究の参考に資する。関連分野の研究者による学術講演を毎回実施。夏冬の研究協議会は、原典購読などの読書会、授業やテストなどのプリント持ち寄りによる実践交流などさまざまな角度から研究会を企画。

### テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

二年前より新科目「公共」について学習指導要領や新教科書の勉強会を実施し、「公共の扉」についての授業事例集を発行した。コロナ下でのリモート学習やデリダの「脱構築」についての学習を行った。

### 研究会活動の内容と成果と課題

1. 第1回研究例会:6月12日(土)(オンラインで実施)学術講演「仏教思想のエッセンスを辿る」東京大学教授 下田正弘 2. 夏季研究協議会:8月26日(木)(オンラインで実施)(1)読書会 デリダ「プラトンのパルマケイアー」 レポーター 東京都立西高等学校 菅野功治(2)「公共」教科書を読む 3. 第二回研究例会:11月23日(火)(1)録画による公開授業「出会いと別れの現代社会」東京都立小山台高校 茶山一郎 (2)学術講演「供犠的構造をいかに脱臼するかーデリダ「死を与える」から「最後のユダヤ人へ」」 東京大学准教授 郷原佳以 4. 冬季研究協議会:12月27日(月)(1)読書会:内村鑑三『代表的日本人』レポーター 東京都立足立新田高等学校 加藤隆弘(2)「“公共”の授業について考える」実践報告会 「資料を中心に据えた「公共」の授業に向けて」城北高等学校 藤谷亮太 「倫理的な視点から「公共」の授業をつくる」筑波大学附属高等学校 山本智也 課題:事務局の世代交代

**今後の活動予定**  
第3回研究例会:  
録画による公開授業及び学術講演(2月実施予定)  
新科目「公共」資料集を読む

**代表者・連絡先**  
代表者:東京都立町田総合高等学校  
校長 山本勇  
連絡先:東京都立西高等学校学校  
教諭 菅野功治 03-3333-7771  
[Kouji\\_Kanno@education.metro.tokyo.jp](mailto:Kouji_Kanno@education.metro.tokyo.jp)

# 団体名 東京都高等学校数学教育研究会

## 団体の概要

東京都高等学校数学教育研究会（都数研）は、75年の歴史を持つ研究団体で高等学校の教員を中心に大学生や社会人まで120名ほどの会員が活動している。都数研として授業研究・講演会等を行うとともに、研究部と編集部を組織し、研究部では5分科会に分かれて研究活動を行い、その成果を全国大会等で発表し、広く共有している。編集部では研究成果等を取材・集約し、年3回の会報と研究集録にまとめている。また、「高校生のためのオンライン先端数理科学見学会」を開催した。

## 令和3年度 研究主題

「改訂高等学校学習指導要領全面実施に向けた数学教育の研究  
：コロナ禍において学びを止めない数学学習を目指して」

## 分科会紹介

### 学習指導法分科会

研究テーマ：高校生に興味・関心を抱かせる数学の教材集づくり  
活動状況：毎月1回、オンラインや都立高校（主に日比谷）で開催  
研究方法：毎回参加者が教材を持ち寄り、意見交換するとともに、その実践等を通してより洗練された教材にし、それらを教材集にまとめる。

### 大学入試分科会

研究テーマ：大学入試問題を通し、高校数学と大学数学とのつながりの研究  
活動状況：学期に2回程度、オンラインで開催  
研究方法：各自が分担した大学の入試問題の検討結果を報告し、入試問題として内容や表現が適切か、どのような解法が考えられるか、問題の背景にどのような定理・公式・理論が広がっているか、日々の授業にフィードバックできることはないか等の研究協議を行っている。

### ICT分科会

研究テーマ：分科会のサイトを活用した教材の共有、教材の整理  
：ソフトウェアの活用・教材作成、授業研究  
：デジタル教科書の研究、ICT講習会の開催  
活動状況：2か月に1回程度、オンラインや都立高校（主に晴海総合）で開催  
研究方法：年間計画に基づき、毎回、教材研究、授業実践、ICTソフト研修、CBTの研究、デジタル教科書の研究を行っている。

### 定通分科会

研究テーマ：定通教育指導体験発表会（1月）に向けて、定時制の生徒を対象にした分かりやすく、生徒を引き付ける授業の実践研究  
活動状況：2か月に1回程度、都立高校（主に一橋）で開催  
研究方法：担当者を決め、研究授業の指導案を検討、模擬授業で確認・改善し、実践を行う。成果と課題を、定通教育指導体験発表会で発表する。

### 数学I分科会

研究テーマ：数学I・数学A全般に関する研究、指導方法の研究、実践例の報告  
活動状況：学期に1回程度、都立高校を会場として分科会を開催  
研究方法：数学I・数学Aにおける実践例の報告やALの導入教材の紹介などを行い、授業実践につなげる。

### 代表者・連絡先

代表者：  
東京都立田柄高等学校  
統括校長 加藤竜吾  
連絡先：  
東京都立神代高等学校  
主幹教諭 宇佐美俊哉  
TEL:03(3300)8261 Mail:info@tosuken.jp

# 東京都高等学校科学教育研究会

本研究会は都立高等学校の理科実習助手が中心となり活動している。  
今年度も実習・実験を支える者としての資質の向上を目的とし、研究協議会  
開催やオンライン併用ミーティングなどを行った。

## 【第1回研究協議会】

開催日：7月5日(月)

場 所：都立青山高等学校

テーマ「化学反応と光エネルギー  
～光化学の実験をしてみよう～」



## 【第2回研究協議会】

開催日：12月6日(月)

場 所：都立武蔵高等学校

テーマ「煮干しのお腹から海の  
環境を考えてみよう」他



## 【オンライン併用ミーティング開催】

今年度も新型コロナウイルス感染症  
の感染状況を鑑み、事務局会議や  
運営委員会を対面とオンライン併用  
にて開催した。

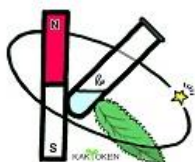


## \*成果と課題

- ・研究協議会では、実習助手としての知識と技術の向上を図ることができた。
- ・次年度は、研究施設の見学をできる範囲で再開していく。また、他県の実習助手と交流の機会を作り、情報交換ができるよう取り組んでいく。

## \*今後の活動

- ・ 第3回研究協議会を3月に予定



代表者 都立昭和高等学校 副校長

加藤 武

連絡先 都立大泉高等学校 専修実習助手

仲川 由美

TEL : 03-3924-0318 (都立大泉高等学校)

Yumi\_Nakagawa@education.metro.tokyo.jp

# 団体名 東京都理化教育研究会

## 団体の概要

東京都内の高等学校（都立・国立・私立）の理科（物理・化学・地学）教員と加盟を希望される方で構成される組織で、様々な物理・化学・地学に関する教育実践、研究、後援を行っている。

## 研究テーマ

東京都における物理・化学・地学教育の推進・発展  
東京都における若手教員への教育実践等の継承  
東京都における物理・化学・地学教員の研修の機会の設定

## 研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

主体的・対話的で深い学びにつながる教材・実験の開発と実践  
物理・化学・地学と日常生活や社会との関連を図る指導を充実させる  
指導法・実験の開発と実践

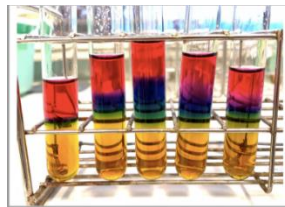
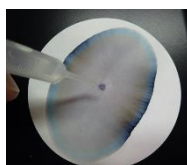
## 取組

新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、年間約15回の定例会はオンライン併用で実施した。委員の開発した実験については協議を重ね改善した後に、各委員の所属校で試行して更なる改善を図った。また、人流の抑制が伝えられた時期は、オンラインによる検討会を開催した。

## 成果

1月に実施した「専門委員会発表会」での特筆すべき研究について、8月にオンラインで開催した日本理化学協会・全国理科教育大会で発表し、広く普及を図ることができた。

オンラインで行った12月の「研究発表大会」では、会員間で意見交換等を通じて、教科教育の深化、普及を行えた。



## 課題

個人の研究活動や協議会の活性化と、研究内容の普及を図る。  
今年度より合併・発足した地学研究会の活動の活性化と、研究内容継承と普及を図る。

## 今後の活動予定

1月：専門委員会発表  
2月：役員会及び研究集録発行  
毎月：若手向け研究会の開催

## 代表者・連絡先

代表者：農産高等学校校長 伊達崎広  
連絡先：戸山高等学校 大島輝義  
03-3202-4301

Teruyoshi\_Ooshima@member.metro.tokyo.jp

## 団体名 東京都生物教育研究会

**団体の概要** 東京都の高等学校の教員を中心に、862名の会員からなり、生物教育の充実を図るとともに、教員相互の情報交換を活性化するため、支部・総務部・編集部・研究部・委員会に組織を分担し、活動している。総会と教職員研修センターとの連携研修を年に1回、研究部の研修会を毎月1回、各支部の研修会を年に2回、教材開発委員会・生態学教育委員会・海洋生物研究委員会・教育課程委員会・社会連携委員会の各委員会主催の研修会を年に2回程実施しており、活動記録は都生研会誌として発行している。また、毎年、日本生物教育会や日本生物教育学会等における全国大会での発表を行うとともに、全国の生物教育研究会との連携も定期的に行い、日本の生物教育の向上を目指して活動している。

**研究テーマ** 主体的・対話的で深い学びへとつながる、授業で行う探究活動の指導法の研究及びその評価について

**研究のねらい** 生徒の主体的・対話的で深い学びの実践に向け、理科の見方・考え方を働かせた探究活動の指導力、多様な校種及び生徒の実態に合わせた展開・汎用力を向上させる。またその評価について研究する。

**研究の内容** 教材開発、フィールド調査、実験講習、研究協議会等、年間20回以上の研修会企画、大学や国立科学博物館などの研究機関との連携による教材開発、高大連携研修、及び最新研究講演会の開催をとおり、教員の指導力向上につながる。

**研修会一覧(活動報告)** 日付・テーマ・参加人数(対面「対」、オンライン「オ」)

【全体総会】 ・講師(都立教諭以外の場合のみ記載)  
 7/4 都生研総会(写真1) 対・オ 計54名  
 記念講演「動物言語学の創出～科学でせまる野鳥の会話～」  
 講師：鈴木俊真 博士(京都大学)

【1・2支部】支部総会 オ31名  
 【3・4支部】支部総会 オ19名  
 【5・6支部】支部総会 オ10名  
 「PCR」研究協議 オ

【多摩支部】  
 6/26 多摩南北支部総会 オ5名  
 11/14 八国山観察会 対8名

【研究部】  
 ・研究協議会  
 4/18 第2回「1年間を見通した授業デザインの方法」 オ9名  
 4/24 第3回「ブタの胎児の解剖実習」 オ13名  
 5/29 第6回「すぐに実践したくなる授業教材の紹介 植生/生態系編」 オ10名  
 6/12 第7回「教材生物の飼育法及び活用法に関する研究協議」 オ17名  
 7/2 第8回「日本生物教育学会第105回全国大会 アンコール発表会」 オ31名  
 8/29 第9回「黒目川・落合川の生態系観察」 オ11名  
 10/15 第11回「生物基礎での植物の特徴を見分ける生徒実習」 対8名  
 10/21 第12回「ブタ頭部を用いた脳の観察@都立国立高等学校」 対16名  
 10/23 第13回「探究活動でのテーマ設定の指導/支援方法」 オ15名  
 11/6 第14回「観点別評価をとり入れた生物の授業」 オ25名  
 11/18 第15回「ホヤ胚の観察から発生と進化を学ぶ生徒実習」 対10名  
 11/27 第16回「ブタ頭部・鶏頭を用いた脳の観察@都立本所高等学校」 対15名  
 6/4、11、18、25、7/1、9、16 ウィークリー研究協議会 オ計60名  
 (第1回、第4回、第5回、第10回は感染症拡大防止のため中止とした)

・教育課程委員会主催  
 9/7・9/21・10/12・10/28・11/9 (全5回)  
 「新課程 生物基礎のカリキュラム・授業方法を考える」 オ計65名

・生態学教育研究会主催  
 10/24「里山の教育利用」に関する研究協議会 対15名  
 11/13「生態分野の探究」についての研究協議会・教材配布会 対15名

・海洋生物研究委員会主催  
 7/31「海水水槽の維持管理・海水魚の正しい飼育法」 対13名

・社会連携委員会主催  
 8/14「ボルネオ島スタディツアー&サステナブル・ラベルスクール」 オ150名  
 9/18「生物学で未来を考える」 オ100名

【他団体との共催企画】  
 ・公益財団法人藤原ナチュラルヒストリー振興財団設立40周年記念・東京都生物教育研究会共催 「ムササビとムササビの棲む森を見よう！」 対22名  
 ・日本生物教育会共催「新学習指導要領における評価に関するシンポジウム」についての研究協議会 オ125名

【全国大会関係】  
 8/6、7 日本生物教育会長野大会@オンライン 東京都生物教育研究会支援 オ328名

【連携研修】  
 9/28午後(オ)、11/4午後(対面)の計2回実施  
 理科I(中・高・特) 対29名 講師：武村 政春(東京理科大学教授)



写真1 都生研総会、ハイブリッド開催の様子

**研究の成果と課題**

◆研究の成果  
 ・実施した研修会  
 感染予防対策をとった上での対面研修会及びオンライン研修会 計41回

・研修会参加者 総合計1,229名

・【研究部】参加者アンケート  
 (研究部の研究協議会にて実施した参加者アンケートを4点満点で集計したものである)

研修満足度	平均 3.90
研修理解度	平均 3.72
研修活力度	平均 3.75

・オンラインで行った解剖実習では、参加者が最前列にいるような見え方で進めることができ、新たな利点を見出すことができた。

・各所属校の生物実験室からオンラインで研修に参加し、実際実験室にある道具を用いてその場で観察・実験を行う、同期実験講習及び研究協議を行うことができた。

・オンラインでは、対面では参加できないような遠隔地から新規の参加があり、研修の機会を提供することができた。

・参加人数を制限し、感染症対策を行った上での対面研修は、実物を扱うことによって実際の授業でどのように活用するかをより具体的に想定することができ、実践的な経験を積める研修となった。

・令和4年度より施行される観点別評価について、文部科学省調査官による講演会、学習会及び実践報告会を開催し、研究協議会を行った。

◆課題  
 ・オンラインで開催が難しい観察・実験の研修会は、社会情勢により中止せざるを得ないことがあったので、今後工夫する必要がある。

・「指導と評価の一体化に向けて」の研究協議は活発であったが、実践例が少ないので、今後も協議を継続していく。

以上により、今後もオンライン、対面研修の双方の利点を生かした研修会を開催する。また、評価の在り方についても、研究を継続する。

**今後の予定** 引き続き12月～3月に11の研修会を実施予定であり、年度末に都生研会誌の編集を行い、令和4年度7月に発行を行う予定である。また、来年度の研修会の企画準備と同時に、令和6年度実施予定の日本生物教育会全国大会東京大会に向けて、研修会の充実及び高大連携、教員同士のつながりを維持し、発展させていく予定である。

**代表者連絡** **代表・会長** 都立浅草高等学校 校長 内田 隆志 **事務局** 都立小石川中等教育学校 教諭 佐野 寛子  
 Hiroko\_Sano@education.metro.tokyo.jp

# 団体名 東京都高等学校保健体育研究会

## 団体の概要

昭和44年、坂井田逸治氏を初代会長として発足する。その後、昭和46年第2代会長の重田一氏が関東地区高等学校保健体育研究大会の会長として関東地区の保健体育授業力の向上に尽力した。本研究会は継続的に研究したものを関東大会で発表をしている。

**研究テーマ** 生徒による主体的な授業における体力向上  
～3分間20m折り返し走～

**研究のねらい** 生徒による主体的な授業においても教員主導の授業においても、効果的な生徒の体力向上に主眼を置いた授業をつくり、その実践により生徒の「生きる力」をはぐくむこと

## 研究の内容

「3分間で20m間隔のラインを何回折り返したか」という身体活動にチームとして実施させる。往復走の実施の前後で新体力テストの数値を比較し、客観的データを検証した。その際、部活動で体力向上したケースを除くため、運動部ではない女子生徒を対象とした比較と、運動部も含めた全体での1000m走の記録に着目して数値変化を比較した。

「3分間20m折り返し走」導入前の平成28年度よりも、導入後の平成31年度の方が体力向上していることが分かった。特に、運動部でない生徒で、この身体活動の効果が立証できた。

尚、詳細については東京都立飛鳥高等学校  
主幹教諭 金澤 真吾 03(3913)5071 まで

## 研究の成果と課題

【成果】生徒はチームで取り組むことにより、前回の記録と比較したり、往復のラップタイム、直後の脈拍を計測したりすることで自分の状況を踏まえて前向きに取り組むことができたこと。

運動部ではない女子生徒において記録が向上し、身体活動の効果が確認できたこと。

【課題】今後も授業を通じて、自己の身体への気づき、他者との関わり、技術的要素の考察など、主体的に体力向上に取り組ませることで「生きる力」をはぐくみ、生涯にわたった豊かなスポーツライフの実現へつなげていくこと。

## 代表者・連絡先

代表者：本研究会会長  
東京都立総合工科高等学校 校長 中村 辰雄  
連絡先：本研究会事務局  
千代田区立九段中等教育学校 主任教諭 長谷川 浩  
03(3263)7190 hasegawa@kudan.ed.jp



# 団体名 東京都高等学校書道教育研究会

## 団体の概要

・東京都高等学校書道教育研究会は、書道科の教員を中心に、教科の垣根をこえ、様々な教科の教員で構成されています。

様々な専門教科の教員が、指導法や部活動指導の在り方を考えることを目的に活動を行っています。

現在、東京都では芸術科書道の**正規教員**がいない中で、様々な教科の教員が書道科の時間講師と研究会を運営しています。

## 研究テーマ

- ①**中学校国語科**の書写と**高等学校芸術科書道**との**系統性**を理解したうえでの指導法の工夫
- ②部活動における指導
- ③書道パフォーマンス指導法の工夫

## 研究のねらい

- ・中学校国語科の書写での学習を発展させ、書の伝統と文化についての理解を深める。
- ・書道の指導**力**を**高める**ことで、部活動の活性化を図る。

## 研究の内容

・書の伝統と文化**へ**の理解を深めるために、生徒へどのようにアプローチしていけばよいかを考えている。例えば、**研究会**で書の伝統文化体験を積極的に行い、教員が書の伝統文化を体験する機会を設定している。

## 研究の成果と課題

- ・教員が積極的に研究会をつうじて**書の伝統と文化**について理解を深め、生徒の指導に還元できるよう努めている。
- ・部活動では、生徒に書の伝統と文化、**書**を愛好する気持ちを育むことの大切さを伝える指導法を考え、技術指導に偏らないよう努めている。

## 今後の活動予定

- ・研究紀要の作成

## 代表者・連絡先

代表者：  
都立大田桜台高等学校 校長 石山 智典  
連絡先：  
都立足立東高等学校 主任教諭 矢口 正樹  
Masaki\_Yaguchi@member.metro.tokyo.jp

## 東京都高等学校英語教育研究会

### 団体の概要

東京都高等学校英語教育の振興を図ることを主な目的とし、英語教育上の研究及び講習会の開催、並びに生徒の行う研究・発表（スピーチコンテスト、ディベート、プレイコンテスト等）の支援を行う。

### 第57回 東京都高等学校英語スピーチコンテスト

令和3年11月3日（祝）、コロナ感染症対策のためオンライン形式で実施した。第1部（出場資格に制限あり）では13名が出場、都立小石川中等教育学校生徒による“The Art of Online Communication”が優勝、第2部（制限なし）では6名が出場、都立国際高等学校生徒による“It’s Okay to Not Be Okay”が優勝した。各優勝者は、令和4年2月13日（日）開催の14回全国高等学校英語スピーチコンテストに東京都代表として参加する予定である。

### 第24回 東京都高校生英語ディベートコンテスト

令和3年10月31日（日）予選を8校で、11月3日（祝）決勝は“*That the Japanese Government should relocate the capital functions out of Tokyo*”を論題に私立渋谷高等学校と私立創価高等学校とが戦い、否定側の渋谷高等学校が勝利した。

### 第72回 東京都高等学校英語プレイコンテスト

令和3年11月7日（日）都立両国高等学校による“The PROM”、私立頌栄女子学院高等学校による“The PROM”、私立白百合学院高等学校による“Quintet”が披露された。今年度は3校のみの参加だったため順位は付けず、個人賞のみ表彰した。

### 第21回 関東地区高等学校英語教育研究協議会「千葉大会」

令和3年8月18日（水）・19日（木）開催の当大会では、都立小平高等学校の小森谷文瑠教諭が、分科会「話すこと（発表）」において、小平高校の事例（スピーチ、授業、評価方法、教材等）を発表し、教育庁指導部の天野大輔指導主事から指導助言を得た。

#### 代表者・連絡先

代表者：  
東京都立日野高等学校 校長 宮野 聡  
連絡先：  
東京都立大崎高等学校 副校長 瀬田栄治  
03(3786)3355 Eiji\_Seta@member.metro.tokyo.jp

# 東京都高等学校情報教育研究会

## 団体の概要

平成15年度からの高等学校の教科「情報」の開始を踏まえ、東京都内の高等学校等における情報教育の充実を図ること、東京都内の高等学校における情報教育を研究・推進する目的で設置されました。

おもな活動としては、教科「情報」に関する研究、各教科等での情報活用の研究、学校教育の情報化に関する研究などがあります。

## 取組の内容

教科「情報」に関する研究の一つとして、授業公開や情報交換会を実施しています。また、他県の研究会との交流や、情報処理学会と連携した最新の話題について学ぶ機会の提供も行っています。

### ■ 授業公開

日付：令和3年10月22日

場所：東京都立町田高等学校

内容：アンケート調査とそのデータ処理を活用した情報モラル向上プロジェクト学習を行った。生徒はアンケート調査について、体験を伴った学習をし、設問や計画を考えた。



### ■ 情報交換会（オンライン）

日付：令和3年7月5日、10月19日、12月2日

内容：情報Iの実施に向けて情報リテラシーをどこまで扱うか、一人一台端末の活用などについて検討が行われた。



### ■ 情報処理学会と連携した研修の実施（オンライン）

日付：令和3年8月12～15日

内容：大学教員による情報教育に関する最新事情の紹介や、他県も含めた各校の授業実践の報告が行われた。

## 今後の活動予定

研究大会

令和4年3月29日（火）

会場：日本電子専門学校

詳細はWebサイトにて

## 代表者・連絡先

代表者：

東京都立田園調布高等学校 校長 福原 利信

連絡先：

東京都立石神井高等学校 指導教諭 小松 一智

電話 03(3929)0831

## 団体名 東京都農業高等学校教育研究会

### 団体の概要

東京都の農業系高等学校等に勤務する教職員で構成し、農業高等学校教育の発展並びに農業教育の振興のため、教職員の研修の充実を図る。

### 研究テーマ

農業教育の発展・振興のための教職員の技術の深化と人材育成

### 研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

教員の技術研修を通して農業教育の教育的意義と必要性を確認、教職員の資質・能力の向上を目指すとともに、実践的な実験・実習等の体験的な研修を通して技術の向上を図る。

### 取組の内容

年3回の総会、講演会

- ・島しょ地域の農業教育（八丈高校実践事例）
- ・地域連携、高大連携事業（農業高校実践事例）
- ・「人と人とのつながりを大切にした都市農業について」

生物生産部会

- ・ランの共生培養の講義・実験

資源活用部会

- ・ラッピング技術と授業への活用
- ・電子顕微鏡の活用と授業実践

環境部会

- ・造園CADの活用1・2

教養部会

- ・田植え実習と神代農場での自然観察
- ・収穫実習（稲刈り）及びわら細工実習



教養部会 収穫実習

### 成果

専門家を講師として招聘し、参加者の技術の向上を図ることができた。また、農業教育の一層の充実・発展に努めていく有意義な機会となった。

### 課題

新学習指導要領に向け、ICTを活用したスマート農業への対応を積極的に行う必要がある。

### 連絡先

代表者：東京都立農業高等学校 校長 齋藤 義弘 連絡先：東京都立農業高等学校  
副校長 江森 忍 042(362)2211 S1000207@section.metro.tokyo.jp

# 東京都商業教育研究会

## 団体の概要

商業教育の充実・進展を図ることを目的として、商業教育の制度・内容並びに方法の調査・研究を行い、継続して実業界との連携と新学習指導要領における教科指導の方法を研究する。

## 研究テーマ

1年次から3年次まで一貫して、ビジネスの諸活動を実地に学ぶ機会を提供し、「ビジネスを考え、動かし、変えていく力」を育成する。

## 研究のねらい

PBL学習のねらいを次の3点とする。①他者との関りから社会人としての生き方を学ぶ。②ビジネス活動を実地に体験することでビジネスの在り方を学ぶ。③プロジェクトを遂行する過程で生じる課題に向き合い課題解決力、思考・判断・表現力等を身に付ける。

## 研究の内容

2年次の授業で考案した商品の製造販売に取組み、ビジネスを実地に学ぶことで、勤労観・人生観の変化を検証する。



- 製造委託先の選定から生産
- 国立市ふるさと納税返礼品登録
- クラウドファンディング
- Base (ECサイト) 販売
- 地域企業と連携した販売活動

## 研究の成果

活動を通して生徒は利己的な思考から利他的な思考へと価値観を変化させていった。また実務的な能力として、ビジネスの場面における表現力・折衝力・論理的思考力の向上を認めた。取組みに対する周囲からの反響が大きく、関係企業から人材としても関心が寄せられた。

## 今後の予定

新商品企画や販売活動を継続・発展させ、実践を通してビジネスへの対応力を一層高める。

## 代表者連絡先

代表者：  
東京都立太田桜台高等学校 校長 石山 智典  
発表に関する連絡先：  
東京都立第五商業高等学校 主任教諭 坂本 由季  
042-572-0132 Yuki\_Sakamoto@education.metro.tokyo.jp

## 団体名 東京都奉仕・ボランティア教育研究会

### 団体の概要

本研究会は、平成23年度に教科・科目「奉仕」における授業実践、設置目的の「社会の一員の自覚」及び「規範意識と社会貢献意識の醸成」等を目的に発足し、今年度で10年目を迎えました。

「奉仕・ボランティア教育」に関心をもつ教育者や奉仕・ボランティア関係団体の方々が集まる研究会として活動しています。研究会の公式ホームページを作成し、情報発信を行っています。是非ご覧ください。

### 研究テーマ

新学習指導要領を見据えた探究型・課題解決学習型の奉仕・ボランティア教育の在り方について探る。

### 研究のねらい

教科指導や奉仕・ボランティア学習等の社会貢献活動に関する指導方法などを研究し、研究成果を多くの学校で活用することで生徒の自主的で多様な社会貢献活動の契機としたい。

### 研究の内容

- ・ 異校種の取組と成果課題の把握、交流を目指した小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の実践事例の見学及び意見交換
- ・ 社会に開かれた教育課程、キャリア教育、主体的・対話的で深い学びを具現化した奉仕・ボランティア教育の取組の研究
- ・ 令和4年度全国高等学校総合文化祭東京大会「とうきょう総文2022」に向けての開催準備

### 研究の成果と課題

今年度は、新型コロナウイルス感染症の中でできる奉仕・ボランティア活動を模索する1年でもあった。通常の活動は予定どおりには進まなかった。

一方で、令和4年度全国高等学校総合文化祭東京大会「とうきょう総文2022」に向けて準備を進め、11月14日(日)にプレ大会を実施できたことは大きな成果である。

### 代表・連絡先

代表者：都立上野高等学校  
統括校長 吉田 寿美  
連絡先：都立神代高等学校  
主任教諭 鯉淵 健太  
03-3300-8261

Kenta\_Koibuchi@education.metro.tokyo.jp

外部と連携し、講演会・月例会での意見交換をとおして、様々な取組にチャレンジし、奉仕・ボランティア教育の活性化を目指します。

# 東京都高等学校性教育研究会

## 団体の概要

昭和50年に、高等学校生徒の性教育の在り方、進め方に関する実践的な研究及び生徒の健全育成に関する研究を行うことを目的として設立された研究会である。保健体育科教員や養護教諭だけでなく、他の多くの教科の教員も所属し、多面的に研究を行っている。

## 研究テーマ

新学習指導要領における性に関する指導  
～課題把握と指導内容の検討～

## 研究のねらい

令和4年度より、新学習指導要領が完全実施される。その趣旨を踏まえ、教科・科目、特別活動及び総合的な探究の時間において、性に関する指導を行う上での課題把握や指導内容の検討を行う。

## 研究の内容

〈調査研究・情報収集〉

社会の変動に伴い、高校で行うべき性に関する指導内容にも変化が生じている。国や都の施策、諸外国の情報収集及びアンケート調査から知見を得る。

〈実践事例研究〉

各校で実践されている性に関する指導について、報告をもとに検討を行い、より多くの学校で活用できるようにする。

## 研究の成果と課題

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、都教委発行の「性教育の手引」をもとにし、人権意識や生徒の健康に関する適切な意思決定及び行動選択についての指導方法の検討や公開授業を開催することができた。

コロナ禍において、他県や都立高校の情報を得ることが難しく、実践事例の収集や学校訪問への取組が課題である。

今後の活動予定

- ・ 月1回定期的に研究協議会を開催する。
- ・ 年1回講師を招聘し講演会を行う。
- ・ 研究内容をまとめた会誌を発行する。

代表者・連絡先

代表者：

東京都立翔陽高等学校 校長 榎 茂喜

連絡先：

東京都立足立工業高等学校 主任教諭 横 史明

TEL: 03-3899-1196 FAX: 03-3899-0195

Fumiaki\_Yoko@education.metro.tokyo.jp